

現代民話の日韓比較

A Comparison of Modern Korean and Japanese Folktales

島村恭則

①問題の所在

②怪談系統の現代民話

③笑話系統の現代民話

④日韓比較

【論文要旨】

日本における現代民話研究は、すでに少なからぬ研究の蓄積を見ているが、日本の現代民話を日本以外の社会の現代民話と比較検討する作業は、まだまったくといってよいほど行なわれていない。この研究動向への欠を補うべく、本論文では、韓国社会で語られている現代民話について、日韓比較の視点から検討した。本論文で行なった指摘を列挙すれば、次のようになる。

- (1) 現代韓国社会では、現代民話がたいへんさかんに語られているが、日本社会における現代民話の存在様態と比較した場合、怪談系統の現代民話に加えて、社会的・政治的な諷刺の性格を持った笑話系統の現代民話が豊富に語られている点を特色として指摘できる。
- (2) 韓国で、笑話系統の現代民話がさかんに語られていることの背景には、独裁政権下の社会状況と民主化闘争、深刻な労働問題、急速な経済発展とそれに伴なう矛盾などが存在するものと考えられる。
- (3) 現在、日本の現代民話研究において集成され、分析が加えられている現代民話群は、その大半が怪談系統の語りであり、社会的・政治的な諷刺の性格を持った現代民話をそこに見出すことは困難である。この状況を規定する要因は、①70年代以降の日本社会における脱政治化、②言論統制等の抑圧が存在しないことによるメディアとしての現代民話の需要低下、③研究者における現代民話対象化過程における偏向、といった要素の複合に求められる。
- (4) 上の指摘をふまえたとき、われわれは現状の再解釈と再調査を行なう必要に気づかされる。また、海外との比較研究は、こうした現代民話再考の契機となるものであり、ここに比較研究の重要性が確認されるものである。